

ほけんだより 5月

令和5年5月16日（火）
西多賀中学校

眼科検診

《日時》 令和5年5月24日（水）13:30～

※日程が変更になりました。

《対象者》 柏学級→3年生→2年生→1年生

《眼科校医》 高野 章子 先生（とみざわみなみ眼科クリニック院長）

《準備》 保健関係調査票での事前調査に加え、生徒は、学校で最近の目の症状についての問診票に回答する。

《検査の仕方》

- ①検診の前に手を洗い、教室前に並んで、保健室廊下まで移動します。
- ②保健室前の廊下についたら、自分の問診票を持ち、私語をせずに待ちます。
- ③保健室に入り、学校医の先生の前に来たら、問診票を養護教諭に渡します。
- ④自分で下まぶたを下ろし、眼を診察してもらいます。（眼鏡をしている人は外す）

※医師と生徒の会話を減らし、飛沫を防止する目的や、粘膜に触れる可能性をできるだけ少なくするために検査方法を工夫しています。上手にまぶたを下ろせるよう鏡の前で練習してきてください。



※「お願いします。」「ありがとうございました。」等の挨拶は、小声もしくは、お辞儀で気持ちを示しましょう。

眼科検診の受けかた。



いつもは、眼科の先生がまぶたを下げていましたが、感染症予防のために、自分でまぶたを下げて診てもらいます。

保護者の皆様へ

《眼科検診と視力検査の結果について》

本校では、眼科校医の指導により、矯正視力（メガネ・コンタクト使用）で、片方もしくは両方の視力がCもしくはD、裸眼視力（今までメガネ・コンタクトを使用したことがない）で、片方もしくは両方の視力がBCDの生徒に受診を勧めています。裸眼視力でAが見えない場合の原因に、眼の病気があり視力が下がることがあるからです。視力検査・眼科検診ともに「異常なし」の生徒にも、確認のため結果の配付を行っています。結果が手元に届いたときには、ご覧いただきますようお願いいたします。

これからも、眼に優しい生活を心掛けましょう。



視力検査は4つの指標で表します

A 1.0 以上	学校の生活をするのに十分な視力です	
B 0.7~ 0.9	黒板の文字を見るなど学校の生活には困りませんが、定期的なチェックが必要です	
C 0.6~ 0.3	教室の後方から黒板の文字が見えにくい視力です	
D 0.2 以下	教室の前列でも黒板の文字が見えにくい視力です	

《色覚異常について》

先天性色覚異常は男子の約5%（20人に1人）、女子の約0.2%（500人に1人）の割合にみられます。色が全く分からないというわけではなく、色によっては見分けにくいことがある程度で、日常生活にはほとんど不自由はありません。

本人には自覚がない場合が多く、色覚検査を受けるまで、保護者の皆様も気付いていない場合が少なくありません。将来の進路を選択していく中学生の今の時期に自分の身体の特性を知ることが大切です。色を間違える・微妙な色合いの区別がつかないなど気になることがありましたら、眼科での相談をお勧めします。

学校では、見やすい色と太さのチョークを使用し、実験や説明では色だけではなく言葉で説明を付け加えるなど各教科で分かりやすい授業を心掛けています。しかし、学齢が上がるにつれて、各教科の授業が少しずつ専門的になり、美術の色彩の授業や理科の実験、社会の地図帳など色を見分けなければならないことが出てきます。色覚の分かりにくさは人それぞれですので、個々に声掛けや支援が必要になる場合があります。眼科を受診し精密検査を行った結果、学校での配慮のために知っておいた方がよいことがありましたら、担任もしくは養護教諭までご相談・ご連絡ください。